

環境とともに

ワタミグループは、「ワタミ環境宣言」を実現するため、環境（エコロジー）と経済（エコノミー）の両立（W-ECO）を目指し、ワタミエコロジーを中心として、環境活動を実践しています。

環境事業 限りある資源を有効利用し、持続可能な循環型社会づくりに貢献すること

「ワタミ環境宣言」と「W-ECOビジョン2020」の策定

ワタミグループは、1999年に、外食産業で初めてISO14001を本社とグループ外食店舗全店で取得するとともに、「ワタミ環境宣言」を発表しました。2008年には、事業活動の広がりを受け、グループ連結で活動を強化する宣言として、改めて「ワタミ環境宣言」を策定し、その実現を目指して環境活動に取り組んでいます。

また、2009年には、「ワタミ環境宣言」を実現させるための長期的な目標として、「W-ECOビジョン2020」を策定し、「2020年までにグループ全体の環境負荷（CO₂）を50%削減（2008年度比、売上高当り）」するという方針を掲げました。

ワタミ環境宣言 美しい地球を美しいままに、子どもたちに残していく。

- 地球で事業活動を営む企業の責任として、その存在ゆえに生じる環境負荷を少しでも小さくする。～地球の邪魔をしない存在となる～
- 環境活動が経済活動であることを証明して、他の企業を啓発する。
- グループの成長に伴い増え続ける国内外の従業員を介して「環境」に働きかける。その一人ひとりが生活の中で、常に「環境」を意識し、実質的に明日の地球の現実を変えていくための行動をとる。

ワタミグループ環境方針（W-ECOビジョン2020）

グループCO₂排出量を2020年までに50%削減（2008年度比、売上高当り）

ワタミグループは、ワタミ環境宣言2008の考え方に基づき、W-ECOビジョン2020を環境方針として掲げます。このW-ECOビジョン2020達成のため、下記のとおり、3つのテーマに分けて環境活動を実施します。

1. 事業活動における環境負荷（CO₂）を低減します。
 - 外食事業、介護事業、高齢者向け宅配事業（※）で排出するCO₂を2020年度までに50%削減します。
2. 循環型社会構築のため、環境改善事業を強化します。
 - 安全・安心な循環型社会構築のため、有機野菜の生産量拡大を目指します。
 - 外食事業・食品製造事業による食品廃棄物（生ゴミ）のリサイクルに努めます。
 - 環境教育や森林保全に取り組む「ワタミの森」の活動を促進します。
3. グループ社員一人ひとりの環境意識を向上させ、日々の環境改善を推進します。
 - 社員・パート・アルバイトが生活で排出するCO₂を2020年度までに30%削減します。

（※）現在は「宅食事業」に事業名が変更されています。

「エコ・ファーストの約束」結果のご報告

ワタミグループは、過去の取り組みと今後への期待から、2010年5月、環境省より「エコ・ファースト企業」の認定を取得しました。認定に際し、ワタミグループは、2012年度までの社会に対する必達目標として、「エコ・ファーストの約束」を宣言しました。

エコ・ファーストの約束 テーマ1 事業活動における環境負荷の低減（CO₂削減）

□各事業でのCO₂排出量削減（2008年度比、原単位（売上高当り））

	目標	結果	達成
外食、介護、宅食事業	15%削減	11%の削減	×
内訳：外食店舗	15%の削減	14%の削減	×
内訳：介護施設	15%の削減	8%の増加	×
内訳：宅食事業	15%の削減	51%の削減	○
食品製造・卸事業での輸送	15%削減	33%の削減	
外食事業の既存店舗	15%削減	19%の削減	

□ISO14001の強化
環境管理統括責任者の設置

エコ・ファーストの約束 テーマ2 循環型社会構築のため、環境改善事業強化（リサイクル率向上）

目標	結果	達成	
外食および食品製造・卸事業での食品廃棄物（生ゴミ）のリサイクル	食品リサイクル・ループを、東京近郊の200店舗で実施 外食および食品製造・卸事業の合計の再生利用等実施率50%	205店舗で実施 実施率52%	
関東、甲信越、東北地方の全店舗で日本酒ビンのリユースを実施		達成（404店舗）	
有機野菜の圃場を250haまで拡大		未達（有農認定圃場面積は204ha）	×

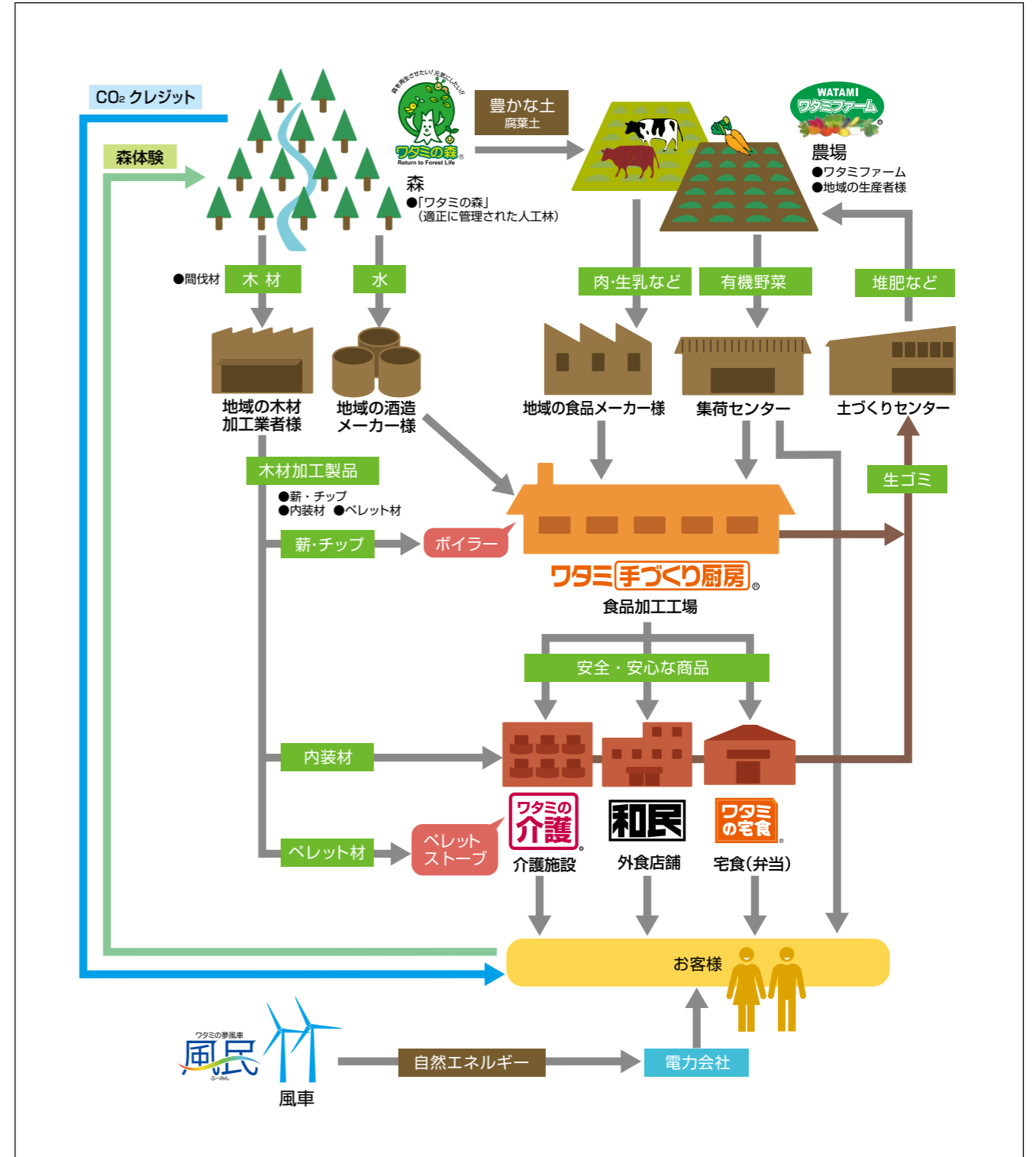
エコ・ファーストの約束 テーマ3 グループ社員の環境意識向上、日々の環境改善を推進（社員の行動）

目標	結果	達成
社員の生活で排出するCO ₂ を一人当たり10%削減（2011年度比）	14%の削減	

エコ・ファーストの約束 テーマ4 森林保全などの環境活動に取り組む地域やNPO活動の応援

目標	結果	達成
「ワタミの森」の活動を促進	2012年度末までに、間伐197本、植樹477本、環境教育参加1,626人	
外食店舗や介護施設などで間伐材などのバイオマスを活用	介護施設の内装、掲示する額縁に間伐材を使用	
環境省・オフセット・クレジット制度を活用し、約90%の外食店舗でカーボンオフセット・ドリンクを導入	行政状況等から判断して一時停止。現在は、売上の一部がNPO法人RFLに寄附される「リターン・トゥ・フォレスト カクテル」を販売	

ワタミグループが目指す循環型社会の全体像



ワタミグループが目指す社会は、すべての命が繋がっている循環型社会です。

命の源である森は、豊かな土をつくり、水（川）を育み、木材という資源を生み出します。豊かな土は、豊かな農場や牧場をつくり、有機野菜の栽培や家畜の飼育が可能になります。豊かな水は、様々な飲料水の原料となります。それらの恵みは、ワタミ手づくり厨房などの食品加工工場を経て、外食事業、介護事業、宅食事業を通し、お客様に提供されます。また、森の恵みである木材は、外食店舗や介護施設の内装材料や燃料としても活用され、豊かな生活環境を

つくっていきます。さらに、それぞれの過程で排出される廃棄物（有機物）を収集し、土づくりセンターで堆肥化して、農場をより豊かにするために再利用していきます。

これら一連の取り組みは、地球温暖化の原因となっている二酸化炭素を削減することにも繋がります。ワタミグループは、この循環型社会を実現させ、「美しい地球を美しいままに未来の子どもたちに残していく」ことを目指しています。

ワタミエコロジーでの取り組み



循環サービス事業

ワタミエコロジーの事業①

廃棄物の適正管理

ワタミエコロジーは、法律を順守した廃棄物処理が行われているかを厳重にチェックし、適正価格かつ安全で安心なスキームが運営されるよう、お取引業者様との強固な関係を構築して「廃棄物処理管理」というサービスを確立しています。

2012年度末現在、ワタミグループ関連会社だけでなく、外部企業約50社からも業務を請け負っています。

また、ワタミエコロジーは、ワタミグループのすべての外食店舗、介護施設における産業廃棄物の収集において、「電子マニフェスト(※)」を導入しており、確実なマニフェスト管理を行っています。

(※)電子マニフェストとは：産業廃棄物の処理を委託する際に必要となる、産業廃棄物の名称、運搬業者名、処分業者名、取り扱い上の注意事項などを記載したマニフェスト(産業廃棄物管理票)の情報を電子化して、排出事業者、収集運搬業者、処分業者の3者が情報処理センターを介したネットワークで、正確な情報や、処理が適正にされているかを把握する仕組み。

廃油のリサイクル

ワタミエコロジーは、お取引業者様のご協力のもと、ワタミグループ外食店舗から回収された廃油を、手洗い石けんとしてリサイクルしています。手洗い石けんは、一部のワタミグループ外食店舗で使用されています。

2014年度には、廃油をBDF(※)として再生利用する予定です。(※)BDF(Bio Diesel Fuel、バイオディーゼル燃料)とは：バイオディーゼル燃料とは、菜種油、大豆油などの植物油や廃食用油などを原料としてつくられる燃料。

食品リサイクルの推進

外食業界では、食品リサイクル法に基づき、企業ごとにリサイクル率の向上に取り組んでいます。ワタミグループは、ワタミエコロジーを推進役として、自社のみならず、業界のリサイクル率を向上させるため、企業連携を含めた食品リサイクル・ループ(※)の構築に取り組んでいます。2010年5月には、国内大手居酒屋チェーンとして初めて、環境省・農林水産省から食品リサイクル・ループの認証を取得しました。

2012年度末現在では、262店舗のグループ外食店舗の生ゴミをリサイクルしています。

(※)食品リサイクル・ループ(再生利用事業計画認定制度)とは：農畜水産物等の利用までを含めた計画的な食品循環資源の再生利用の取り組みを主務大臣が認定することにより、再生利用の促進に関わる関係者の連携を推進するとともに、認定事業者による的確な再生利用の実施、廃棄物処理法の許可手続等の簡素化による効率的な再生利用の実施を確保する。制度上、食品関連事業者、特定肥料等製造業者、特定肥料等の利用者の三者で申請することとなっています。



生ゴミ堆肥化の実験

ワタミグループは、既存の食品リサイクル・ループを発展させるべく、グループ外食店舗およびワタミ手づくり厨房から排出される生ゴミを自社で堆肥化し、ワタミファームで活用する独自の食品リサイクル網の構築を目指しています。

この取り組みの一環として、ワタミエコロジーは、2012年8月、一部のグループ外食店舗から排出された生ゴミを微生物の力を利用して堆肥化する実験を「土づくりセンター」で開始しました。製造された堆肥は、ワタミファーム山武農場に投入され、ワタミファームによって「一般的な堆肥」と「生ゴミ由来の堆肥」の投入量の変化による農産物の生育状況・収穫量の比較検証が行われています。今後は、堆肥の品質や土壌の改良具合などを確認した上で、2013年度中に堆肥の実用化を目指します。

空ビンのリユース・雑ビンのリサイクル

ワタミグループ外食店舗では、ワタミエコロジーを推進役として、2009年より、ビン廃棄量を抑制するため、オリジナル日本酒の空ビンのリユースに取り組んでいます。2012年度末現在、404店舗でリユースを実施しています。

また、2012年3月からは、物流会社様のご協力のもと、全種類の雑ビンの回収、および全量リサイクル・リユースにも取り組んでいます。2012年度末現在、関東地方の358店舗で雑ビン回収を実施しており、約17t/年の廃棄物を削減し、資源の有効活用にご貢献することができました。2013年10月からは、西日本の外食店舗でも実施しています。

再生可能エネルギー事業

ワタミエコロジーの事業②

風力発電の取り組み

ワタミグループは、秋田県にかほ市の市民風力発電プロジェクトに参画し、1号機となるワタミの夢風車「風民(ふうみん)」を、2012年3月より稼働しました。2013年には、新たに2基の風車プロジェクトへの参画を決定し、5月には秋田県秋田市にて2号機を、6月には秋田県利本荘市にて3号機を稼働しました。3基合わせ、出力は6,000kWです。

発電された電力は、再生可能エネルギー全量固定価格買取制度を活用し、全量、東北電力に売電しています。

太陽光発電の取り組み

ワタミグループは、2013年10月より、ワタミ手づくり厨房の屋根にルーフソーラーを設置し、順次、太陽光発電を開始しています。発電された電力は、全量、電力会社に売電しています。

また、株式会社市民風力発電様と連携して、2013年12月に北海道勇払郡厚真町にて、メガソーラー(大規模太陽光発電)を着工し、2014年11月末に竣工・本格稼働する計画を立ててい

ます。メガソーラーと、現在稼働している風車3基分の発電量は、ワタミグループの使用電力の約16%相当となる見込みです。

環境マネジメント事業

ワタミエコロジーの事業③

ISO14001の管理・推進

ワタミグループは、グループ各社ごとに環境管理責任者を置き、独自の目標を立て、環境活動に取り組んでいます。ワタミエコロジーは、ISO14001の事務局として、グループ各社においてISO14001に基づいた環境マネジメントサイクルが適正に稼働されているかを確認し、環境目標が達成できるようサポートしています。

2013年度も、前年度に引き続き、グループ全社でISO14001の認証を取得することができました。

「エコ夢サイト」の運営・管理

ワタミグループは、2010年度、環境家計簿「エコ夢サイト(WEBサイト)」を開発しました。ワタミエコロジーが中心となり、グループ全社員に、日々の生活での電気、ガス、ガソリンの使用量を各個人ページに毎月入力し、自らのCO₂排出量を把握するよう呼びかけています。

2012年度は、「エコ夢サイト」をリニューアルし、CO₂排出量削減につながる具体的な行動をサイト内に提示しました。また、今年度と前年度のCO₂排出量を比較できるようにしました。

これらの取り組みにより、社員一人ひとりが、具体的にCO₂削減のための活動目標を設定することを目指しています。

□エコ・ファースト表彰

ワタミエコロジーは、毎年3月の全体会議にて「エコ・ファースト表彰」を行い、他の模範となるようなCO₂削減の取り組みを行った外食店舗および介護施設を表彰しています。また、「エコ夢サイト」に入力されたデータをもとに、CO₂削減を達成した社員を表彰しています。

エネルギーの“見える化”の取り組み

ワタミエコロジーは、2012年11月より、環境負荷(電力)削減、および電気料金削減のため、ワタミグループ外食店舗と介護施設へ、「エネルギー(電力)管理システム」を導入しています。(※1)

ワタミグループでは、2004年度から外食店舗に「電力の見える化システム」を導入しており、いつ、どこで、どのくらい電気が使用されているのかを計測し、営業時間外・営業時間中のムダ電気の削減に取り組んできました。

今回はその内容を刷新し、リアルタイムでの管理機能をつけることにより、電力が供給逼迫した際に、各事業施設の節電分を電力会社に売電するネガワット取引(※2)を可能としました。さらに、計測した電気使用量をリアルタイムで見ることができると、各事業

施設での節電による成果をより実感できるようになりました。

2013年10月20日現在、外食店舗490店舗、介護施設87棟への導入を完了しています。この取り組みにより、年間26,562千kWhの電力削減を見込んでいます。

(※1)施設オーナー様との契約の関係上、一部の事業施設導入を見合わせています。
(※2)ネガワット取引とは：企業や家庭が節電した電力について、同量を発電したとみなし、電力会社が買い取る制度。

外食店舗への節電の支援・指導

ワタミグループ外食店舗では、2011年度より、CO₂排出量を削減するために「環境改善項目」を設定し、節電に取り組んでいます。この改善項目を徹底させるため、各外食店舗には「改善マニュアルビデオ」を用意し、すべての従業員に対し、取り組み内容の浸透を図っています。

2012年度からは、ワタミエコロジー社員が、定期的に外食店舗を巡回し、外食店舗での節電を支援・指導する取り組みを開始しました。これらの取り組みにより、2012年度は、電気使用量を2010年度比、19.0%削減することができました。

環境改善項目

- エアコンフィルターの月1回の清掃
- 厨房の給排気フィルターの月1回の清掃
- 使用しないジョッキクーラーの電源OFF
- 不要な冷蔵庫の使用停止
- 営業時間外の空調の電源OFF
- 営業時間中の空調温度をお客様の快適な温度に調節
- 営業時間外の作業エリア以外の消灯
- プライベートルームの不使用時の消灯
- 給湯器の温度調整(夏場36度、冬場38度)
- 冷機器のフィルターの月1回の清掃

ライトダウンキャンペーンへの参加

ワタミグループは、2007年度より、環境省主催の「ライトダウンキャンペーン」に賛同し、事業施設のライトダウンに取り組んでいます。

2012年度も継続して、夏至の6月21日と七夕の7月7日の両日、20時から22時にわたり、外食店舗の看板(一部、消灯できない店舗を除く)と、介護施設の外灯看板(外灯看板がない場合は、駐車場・玄関などの照明)を消灯しました。また、ワタミグループの全事業拠点にポスターを掲示し、節電を呼びかけました。

ライトダウンキャンペーン用のワタミグループオリジナルポスター

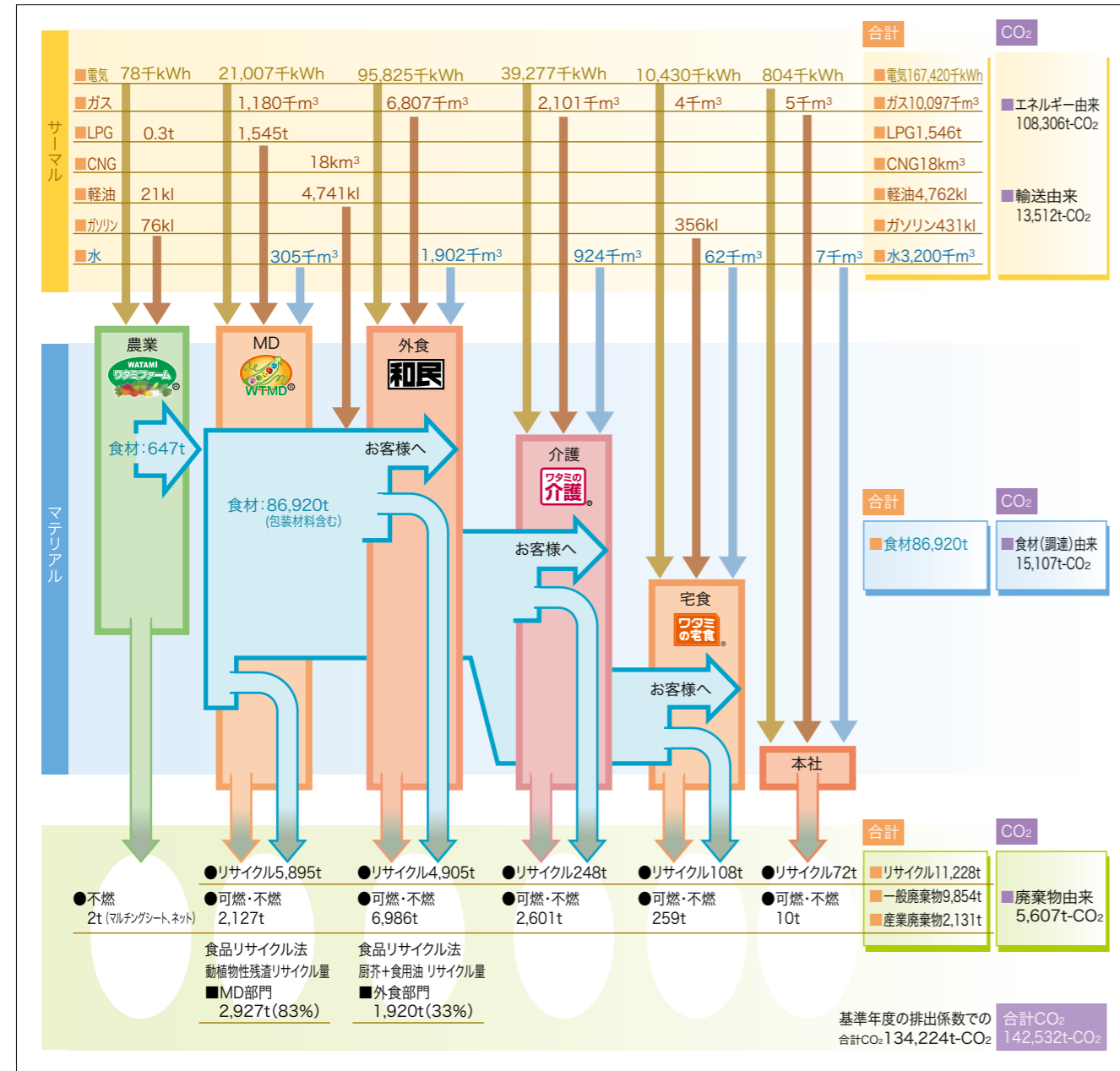


ワタミグループの環境マネジメント

ワタミグループの2012年度の環境負荷

ワタミエコロジーは、「W-ECOビジョン2020」に掲げている「2020年までにCO₂排出量を50%削減（2008年度比、売上高当り）」を達成できるよう、ワタミグループ全事業活動における環境負荷を把握し、次年度の活動に活かしています。

■ワタミグループ マテリアル&サーマル・フロー



【図の見方】①CO₂の排出係数は次の通り設定しています。(毎年度変更となる数値です。努力値を見るために、基準年度である2008年度の排出係数を用いて算出した数値も掲載しています。) ■2012年度算出係数/電力量:0.471 (kg-CO₂/kWh)、都市ガス:2.28(kg-CO₂/m³)、水:0.58 (kg-CO₂/m³)、一般廃棄物:0.0175 (kg-CO₂/kg)、産業廃棄物:2.55 (kg-CO₂/kg) (共通) ■2008年度算出係数/電力量:0.421 (kg-CO₂/kWh)、都市ガス:2.08 (kg-CO₂/m³)、水:0.58 (kg-CO₂/m³) ②表記の数値は、年間総計を示しています。(2012年4月1日～2013年3月31日) ③外食店舗における投入量 (INPUT)は、以下の方法により算出しています。■エネルギー由来/●電気:「エネルギー(電力)管理システム」導入店舗 232店舗の平均単価 (円/kWh)を用いて、経理支払い金額 (円)を除いて算出しています。●ガス:269店舗の検針数値 (m³/店舗)を用いて、店舗数を乗じて算出しています。●水道:請求書から399店舗の平均使用量 (m³/店舗)を用いて、店舗数を乗じて算出しています。■輸送由来/対象範囲はワタミファーム→MD、MD→外食店舗・介護施設・宅食営業拠点としています。■食材(調達)由来/主たる食材である肉類の国内外比率を代表数値として用い、全使用食材の総量を按分した数値に移動距離を乗じて算出しています。④外食店舗、介護施設における排出量 (OUTPUT)は、2012年度の定期計量数値の平均を使用しています。

グループ各社での取り組み

外食店舗へのLED照明の導入

【外食事業】

WFSは、2009年度より、外食店舗の内装に積極的にLED照明を導入しています。2012年度からは、看板照明へのLED照明の導入を開始しており、改装や電球の交換時を利用して、順次切り替えを行っています。

「リターン トゥ フォレスト カクテル」の販売

【外食事業】

WFSは、居酒屋「和民」、JAPANESE DINING「和民」、語り処「坐・和民」、炭火焼だいにんぐ「わたみん家」において、「リターン トゥ フォレスト カクテル」を販売し、カクテルの販売収益の一部をNPO法人Return to Forest Lifeに寄附しています。2012年度は、219,433杯を販売し、2,194千円を寄附しました。



「和民」と「坐・和民」で提供しているカクテル

環境にやさしい介護施設

【介護事業】

ワタミの介護は、施設内装の建材として、ワタミの森の間伐材を積極的に活用しています。また、一部の施設にはペレットストーブを導入し、ワタミの森の間伐材を燃料のペレット材として活用しています。

2011年度には、ワタミの介護初の環境配慮型介護施設「レストヴィラ弁天町」を開設しました。CO₂削減のため屋上には庭園、農園、太陽光パネルを設置し、内装にはワタミの森の間伐材を活用しました。



ペレットストーブ

お弁当箱の再利用、食のムダを削減

【宅食事業】

ワタミの宅食では、お客様が使用したお弁当箱を翌日のお届け時に回収し、衛生的に洗浄・殺菌した上、再利用しています。また、「お料理キット」では、必要な分だけ食材をお届けして、家庭に余分な食材が残らないようにしています。さらに、ご注文を完全予約制にすることによって、お届けする食材を必要量だけ仕入れ、ワタミ手づくり厨房内のロスを無くすことにも努めています。



回収・洗浄・殺菌し、再利用するお弁当箱

東松山センターでの植樹

【MD事業】

日本では、工場を建設する際に、防音、防風、防塵などの役目を果たす緑地を工場の周辺に設けることが義務付けられています。

WTMDは、義務付けられた緑地をつくるだけでなく、多くの従業員に環境活動に参加してもらう機会として、2011年9月よりNPO法人Return to Forest Lifeの協力のもと、ワタミ手づくり厨房東松山センターにて植樹を開始しました。以降、毎月植樹を行い、900本を植樹しました。



ワタミグループ本社ビルでの節電・紙削減

【ワタミ株式会社】

ワタミ(株)は、2010年より、ワタミグループ本社ビル全館の蛍光灯にキャンピースイッチを設置し、ムダ電気の削減に取り組んでいます。また、室温を夏場は28℃、冬場は22℃に設定すること、19時以降のエアコンの使用を控えること、エレベーターの使用を控えること、クールビズ・ウォームビズの徹底、待機電力の削減、夜間・休日の不使用電気の削減などを、従業員に呼びかけています。

2012年度は、複合機にIC認証カードを導入し、ムダな印刷を防げるようにしました。また、名刺にFSC認証紙を導入し、全グループ会社に展開しました。

2013年度には、「ペーパーレスファックス」(*)を導入し、さらに紙削減を進めていく計画です。

(*)ペーパーレスファックスとは:受信した文書が、ファックス番号や相手先番号ごとにフォルダに振り分けられ、データとして保存される。文書は、WEBブラウザを介して、パソコンでの閲覧が可能。

「アースデイ東京」への参加

【農業・ワタミ株式会社】

ワタミグループは、環境問題に対して、人々に関心を持ってもらうことを目的に開催されている「アースデイ東京」に、毎年継続して参加しています。

2013年度は、ワタミファームや契約生産者様の有機野菜や特別栽培野菜、有機野菜を使用したジュースなどを販売しました。また、ワタミの森の間伐材を使用したキーホルダーの作成を、来場者に体験していただきました。



アースデイ東京の出展ブース



「エコ・ファーストの約束」の宣言

ワタミグループは、2012年度までの目標として宣言した「エコ・ファーストの約束」の結果を受け、2013年度に、2015年度までの社会に対する必達目標として、「エコ・ファーストの約束」を改めて宣言する予定です。

エコ・ファースト企業としてのグループの環境目標^(※1)

1 事業活動における環境負荷を低減します (CO₂削減)

- 2015年度までに次のCO₂削減目標を達成します。
 - ムダな電気の削減の促進や再生可能エネルギーの活用による9%の削減を含め、外食(店舗)、介護、宅食事業でのCO₂排出量を2008年度比、原単位(売上高当り)で30%削減します。
 - 食品製造・卸事業での輸送によるCO₂排出量を2012年度比、原単位(食数当り)で10%削減します。
 - 外食事業の既存店舗でのCO₂排出量を2008年度比、総量で27%削減します。
 - 削減目標達成のため、全事業で認証を取得している環境ISO14001を強化し、日常の環境負荷低減に努めます。

2 循環型社会構築のため、環境改善事業を強化します (3Rの推進)

- 外食および食品製造・卸事業での食品廃棄物(生ゴミ)のリサイクルに努めます。
 - 循環型地域モデル(※2)を2015年度までに2つの地域で構築し実施します。
 - 食品リサイクル・ループ(再生利用事業計画認定制度)を構築した外食店舗200店舗において管理維持を含むリサイクルに努め、2015年度までに外食および食品製造・卸事業の合計の再生利用等実施率70%を達成します。
 - 食品製造・卸事業での廃棄物の発生抑制を推進し、2012年度比、原単位(売上高当り)で15%削減します。
 - リユース社会構築のため、リサイクルさせていた日本酒ビンのリユースの取り組みを促進し、2015年度までに関西地域(大阪府、京都府、奈良県、兵庫県、滋賀県、和歌山県)の全店舗に拡大します。
 - 安全・安心な循環型社会構築のため、管理農地面積を2015年度までに800haへ拡大し、グループでの有機農産物および特別栽培農産物の仕入れ量比率を60%にします。
 - 食べ残し削減について取り組み、廃棄物の発生抑制に努めます。

3 グループ社員の環境意識を向上させ、日々の環境改善を推進します (社員の行動)

- 「エコ夢サイト」(環境家計簿)を活用することによって、グループ会社の社員の環境意識を向上させ、生活で排出するCO₂を2015年度に一人当たり19%削減(2011年度比)します。
- さらに社員の環境教育を促進し、パート・アルバイトメンバーを含め、生活で排出するCO₂を2020年度までに一人当たり30%削減(2011年度比)を目指します。

4 森林保全などの環境活動に取り組む地域やNPOの活動を応援します (社員の行動)

- 環境教育や森林保全に取り組むための「ワタミの森」の活動を促進します。
- 外食店舗や介護施設(ホーム)などで間伐材などのバイオマスを活用するとともにNPOや地域の活動を応援し、森林保全に貢献します。
- J-クレジット制度を活用し森林保全に取り組む地域を応援します。

(※1) 今後、環境省の審査を経て、「エコ・ファーストの約束」として発表します。

(※2) 有機物等の資源循環により、持続可能となった地域のこと。P45の「ワタミグループが目指す循環型社会の全体像」の図を参照

【ワタミグループが支援する社会貢献団体】

公益財団法人 有機質資源再生センターへの支援



ワタミグループは、2013年度、公益財団法人 有機質資源再生センター (Organization for Recycling of Organic Resources) (以下、OR2) への支援を開始しました。OR2の特別賛助会員に加入するとともに、活動のサポートを行っています。

OR2は、再生可能な食品廃棄物をはじめとする有機質資源 (以下、有機質資源等) を再資源化し、農畜産業やエネルギー産業等において活用する各種事業を行うことにより、食品産業、流通業、飲食業、ならびに一般家庭等から発生する有機質資源等の減量化及びリサイクルの促進等を図り、もって、産業社会における環境負荷の軽減及び資源の有効な利活用を通して地球環境の保全に寄与することを目的に活動している団体です。